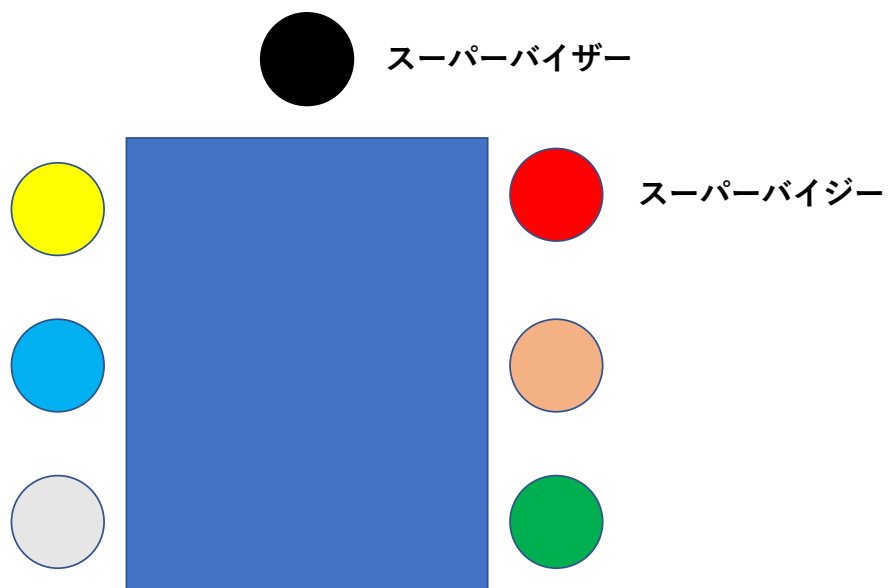


グループスーパービジョンの 進め方例

Keiichi Kikumoto
菊 本 圭 一

1

本来の会議レイアウト 例



2

Step3：質問セッション ①

- グループメンバーからの質問に端的にテンポよく答える(原則一問一答)。
 - 質問された内容以上の回答や説明は控える。
 - わからないことはわからないと答えてよい(推測による回答は避ける)。
 - アセスメントに穴があることは当たり前のことと捉える。
-
- 事例の要点、判断理由などの欲しい追加情報や不明点等について、簡潔に質問する(原則一問一答)。
 - 提出意図に焦点をあて、自分なりの本人像の組み立てのために(意図・根拠をもって)質問。
 - ただし、質問の根拠は省略し、求めたい内容のみ質問する。
 - これまでの講義などで提示された、視点に沿って質問する。

5

Step3：質問セッション ②

- 本人像の共有から始め、徐々に環境やストレスに着目した質問を促す。
- 問題やマイナスの情報だけに焦点を当てないように注意する。
- 自分が次のセッションで意見やアイデアを述べるための情報を探る。
- 経験不足などから、アセスメントに不足が多くても非難せず、どのようにすれば情報を集められるかを意識する。

6

Step4：ブレインストーミング

①

(バズセッション)

- このセッションでは発言・反応しない。
- 黙って聴き、出された発言(本人像・アイデア等)を箇条書きにしながらか録する。(ナンバリングしておくか、整理しやすい)
- セッション終了後に確認したいことか質問かあればメモを取る。

- 水平の立場で発言。事例提供者か他の出席者の批判をしない。
- 積極的に発言する。
- 自分の発言が少ないと感じたら、思ったことを口にしてみるとよい。
- 端的にテンポよく発言する。
- 事例報告者の方を向かずに発言する。
- より具体的・創造的な発言がよい。

7

Step4：ブレインストーミング

②

(バズセッション)

- 自分であれば、どのようにするか一人称で話す。
- まずは実現可能かどうかか制度のことは考えず、思いつくままに自由に発言させることを促す。
- 徐々に具体的な方法か助言になるよう、意見を具体化させゆく。

※他の人の良い着眼点かアイデアをさらに展開させたり、今まで提示されていない視点・ストレンクスに転換してみることも効果的。

※過去の取り組みを一概に否定することではないが、ベテラン職員が過去の自分の支援方法を声高に述べるのではなく、バイジーの力量、視点に着眼しながら述べるように注意する。

8

Step5：応答 今後の取り組み

- 出された本人像やアイテア、解釈や意見に対し、応答する。
- 次回の課題に向け、(次いつ会うか・)どのような関わりをしてみようと思うか具体的に表明する。

- 事例提供者だけではなく、出席者全員に気づきがあったか確認する。
- 事例提供者がうまく気づけない場合には、スーパーバイザーがまとめたり、促しを行う。

- 事例提供者だけではなく、出席者全員に気づきがあったか確認する。
- 事例提供者がうまく気づけない場合には、スーパーバイザーがまとめたり、促しを行う。

9

【演習】グループスーパービジョンステップ

①出席者自己紹介…所属、役職等簡単な紹介を行う。 (初出席者やゲストがいる場合) 役割の確認(提出者、司会、記録、SV…)	(約5分)
②事例紹介…提出意図を明確にし、簡潔に紹介 人物や環境だけではなく、総合的な援助方針やニーズが掴みづらいなど、端的に述べる	(約5分)
③人物像や環境を共有する質問…事例検討前に基本的な内容について確認するし対象者像の共有を図る。質問に答えられない、アセスメントができていないことは、はっきりと「わからない」と伝える	(約15分)
④人物や環境などのストレングスに関する質問…担当者や参加者の視野を広げるため、マイナスの印象をプラスに転化(リフレーミング)するヒントをさぐる。また、問題、課題を明確にし、具体的な支援について検討する。エンパワメントにつながる、動機を探ることも重要。	(約10分)

10

<p>⑤今後の方向性の確認…③④で確認された事実についての解釈や事例の見方を変えるための議論や支援方針等を検討する。これからどう考えて、どう動くか、なるべく具体的なものにする。</p> <p>事例提供者は、意見を書き取ることに専念する。</p>	<p>(約15分)</p>
<p>⑥スーパーバイズ ※スーパーバイザーとなる人が出席している場合に行う</p>	<p>(約5分)</p>
<p>⑦参加者の感想（研修などで必要な場合）</p>	<p>(約5分) 計60～70分</p>

※過去の取り組みを一概に否定することではないが、ベテラン職員が過去の自分の支援方法を声高に述べるのではなく、バイジーの力量、視点に着眼しながら述べるように注意する。